

噴火から34年（噴火当時の伊豆大島の中学校長の記録から）

今回は34年前に伊豆大島を襲った三原山噴火による対応の記録をお伝えします。この東京都に属する伊豆大島は、この噴火の27年後、今から7年前の10月16日に、台風による大雨の影響で一番中心街である元町の多くの範囲が土砂災害という大惨事に見舞われてしまいました。この時は、残念ながら多くの犠牲者を出してしまいました。

学校は常日頃から感染防止対策と同時に防災対策に対して意識を高くもっていなければなりません。生徒への安全指導は今後も様々な場面を想定しながら、途切れることなく行って参ります。



三原山噴火における一ヶ月に及ぶ島外緊急避難に際し、地元の中学校のとった対応と学校職員の行動について、11月21日の大噴火時の学校の様子を中心に日を追って記した。

◎ 11月21日（金）

この日の午後4時17分、カルデラ内で突然大噴火が起きたのは三原山が噴火活動を始めた日から1週間目のことであった。当日は島内で震度5の強震2回をはじめ、中震、弱震後の地震が午後から夕方にかけて間断なく続き、空振や光環現象も起こって昨日までの状況とは異なっていた。

学校内でも相当の揺れを感じていたので、地震に対する諸注意と三原山噴火指導を行いながら、金曜日の通常授業を滞りなく終了した。放課後は全職員全生徒と共に23日に行われる文化祭に向けて準備活動に余念のない状態であった。また、この日には、保護者向けに都立高校入試選抜要綱説明会を行なったため、多数の関係者が来校していた。午後4時17分の噴火は、ようやく入試選抜要綱説明会も終わり、近隣の中学校の校長と三原山の噴火状況について話し合っ

いた矢先の出来事であった。

新たな事態の発生である。校長室南側の窓よりみると白い雲は、みるみる高くなり茶褐色に変色して巨大な積乱雲の様相を呈していた。近隣の校長はいったん自校に戻り、本校では校内放送を通じて文化祭への準備活動を行っていた全校生徒をそれぞれ学級に入るように伝達、午後4時25分より緊急職員会議をもった、直ちに全生徒の地区別集団下校の措置を決定した。その折、生徒指導の留意事項として、次のことを指導するよう担任に指示した。

○大島町教育委員会の情報によれば、新たな噴火の事態が発生している。どんな緊急事態が訪れようと適切な判断と行動がとれるよう心がけること。

○下校は地区別生徒会グループで行う。絶対に寄り道することなく、一刻も早く家に帰り、家族と行動を共にすること。（野増、間伏、北の山のバス通学者は、定時の5時のバスを利用する。）

○下校時、安全に心がける、落下物や塀の倒壊等危険に注意すること。

○中学生であることを自覚し、緊急事態が発生した場合は、必要に応じ家の手伝いや、地域の方々の手助けをすること。

以上4点であった。

生徒の完全下校は4時45分頃になった。気遣われていた北の山、野増、間伏の生徒のバス停での指導に何人かの教師が当たったが、この時点で私たちの予期せぬことが起こったのである。それは、5時発の定期バスの運行を中止するという決定であった。急遽、通勤している先生方の自動車

を総動員し、北の山、野増、間伏のバス通学生徒の遠隔者を中心に輸送することとした。

全生徒の下校を見届けてから、教頭、教務主任、事務員さんに重要書類の搬出整理と学校管理をお願いし、間伏地区の生徒を自分の車に乗せて送り届けることと併せて緊急事態に備え服装等の準備のために家路に急いだ。車が千波の別荘地にさしかかった時、多くの人たちが三原山の噴火状況を見ていた。一人の生徒を下ろして三原をながめると、山全体が火柱に包まれ、まるで「火の衝立」を思わせるよう情景であった。車に乗っていた女生徒の一人が「先生怖いよ」といった言葉が強く印象に残っている。間伏の生徒をそれぞれの家に送り届けた後、自宅に着いた私は、早速着替えを済ませ、妻の作ってくれたおにぎりと防寒着を手に、年老いた父の事を頼みながら、我が家を後にしたのは6時を過ぎていた。

車で学校に向かうとき、消防団員に車は全て通行止めになっているから、学校に行くのは見合わせるようにと注意を受ける。どうしても学校に戻らねばならないからと頼み、行けるところまで行こうと考え、はやる気を押さえながら一路学校に向かった。

この間も激しい地震と割れ目噴火の無気味な轟音が間断なく続く。夜空を焦がす幾筋もの火柱の帯が一層高く立ち昇る。

私は割れ目噴火の溶岩の流れ具合から見て我が中学校は溶岩で埋没してしまうだろうと覚悟した。学校の最後を見届けるまで島に残っていたいという思いを強く持った。状況判断をした私は教育長に島外避難の最終船まで、私と教頭の二人を残してくれるようお願いし、許可を得たのである。

学校に着くと、残留しているべき教頭、教務主任、警備員等が不在となっている。おそらく全員避難命令で波止場に急いだものと思い、約束通り教頭の帰校を待った。本校の土手に植えられている松並木の間より見える溶岩は、真っ暗な中で学校のすぐ近くまで迫っているように感じ、全く無気味なものであった。しばらくして8時過ぎに教頭が帰校し処置上の報告を受けた。

○地震の揺れのひどい教職員住宅の教職員の家族が本校に避難していたが、全員元町港に避難させ、

乗船への体制をとったこと。

○教務主任と事務主査、警備員の3名に緊急主要書類の搬出を依頼し乗船準備を完了したこと。

○乗船が開始され、本校の生徒も家族共々島外避難体制に入っていること。

の3点であった。

教頭より報告を聞いてほっとする間もなく依頼した島外搬出の主要書類以外の重要書類について、あらかじめ教頭、教務主任、事務主査等の手によって搬出準備してくれていたものを2人の車に積み込んで、島内のより安全な場所に移動しておこうということになった。警察官や消防団員が何回となく見回りにくる。その都度、安全のために避難を促される。重要書類を車に積む作業を終え、事務室、校長室、職員室等の点検と体育館の鍵を開けて、緊急必要時の使用が可能な態勢をとっておく。もう一度学校に来ることができると考え、とりあえず港に避難している生徒たちや家族、職員を見送り激励すべく学校を後にした。

波止場で教務主任と警備員に出会う。搬出書類の島外での保管方について遺漏のないようお願いする。何人かの生徒とその家族とも会うが生徒全員が安全に避難し終える事ができるかどうか確認の術もなく、生徒やその家族の様子、職員やその家族の様子が気にかかることであった。乗船は粛々と進められていたのが印象深かった。



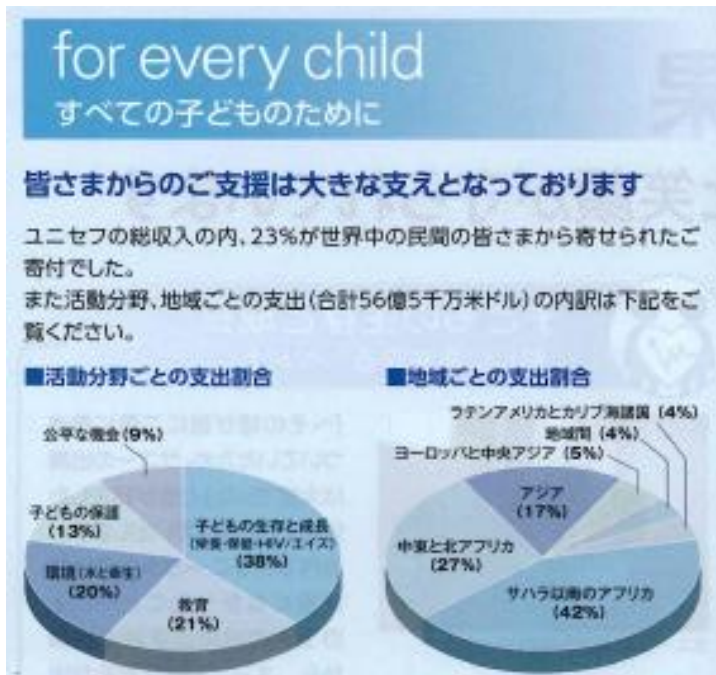
噴火災害に伴う学校の対応（避難までの一部紹介）
大島町立第一中学校 当時 校長 白木義三氏

昭和 61 年伊豆大島噴火の記録 東京都大島町教育委員会

より抜粋

◆ユニセフ募金に協力してくれた皆さんの温かい心遣いは、有効活用されています。ありがとうございました◆

◎皆さんから、7,934円の募金が集まりました。集まった募金は、円グラフの活動分野、地域で使われています。



みなさんの募金でできること

- 312円: 1錠で4〜5リットルの汚れた水をきれいにできる浄水剤 1,000錠
- 1,188円: 熱に弱いワクチンを冷やしながら安全に運ぶことができる保冷箱
- 15,677円: 緊急時でも学校を開ける40人分の学用品がつまったキット (スクール・イン・ア・ボックス)

◎感謝状



◎領収書



◎後期生徒会本部役員が決定し、後期各種委員会、後期中央委員会が動き出しました。生徒会では、ボランティア活動も計画しているようです。募金活動が再度あるようでしたら、また、御協力ください。

◆令和3年度 後期生徒会本部役員メンバー◆

会長：2年 岸本 礼華 副会長：2年 白石 彩夏・1年 辻 春花
役員：2年 滝瀬 栞・1年 高橋 友香・1年 小野寺 諒・1年 勝呂 柚



◆表彰等◆

◎陸上競技部

7月17日(土) 第67回全日本中学校通信陸上競技東京都大会 女子共通 1500m
第10位 2年 松田 悠楽 4分51秒96

◎バレーボール部

7月30日(金) 多摩市バレーボール市民大会 最優秀選手賞 3年 志田 湖春

◎ピアノ

4月1日(木) 第15回 セシリア国際音楽コンクール ピアノ部門 中学生の部 II スター部門
奨励賞 3年 木下 奏音

8月6日(金) 第45回 ピティナ・ピアノコンペティション E級(高1以下)本選
入選 3年 木下 奏音

◎新体操

8月1日(日) 第10回東京ジュニア男子新体操選手権大会 団体戦 国士舘ジュニアRG
優勝 3年 矢島 優聖

8月1日(日) 第10回東京ジュニア男子新体操選手権大会 個人戦
第3位 3年 矢島 優聖

9月26日(日) 第19回 関東ジュニア男子新体操選手権大会 団体競技 優勝 11.300
国士舘ジュニアRG(矢島 優聖)

9月26日(日) 第19回 関東ジュニア男子新体操選手権大会
個人種目別 クラブ 第2位 得点 12.800 矢島 優聖
個人種目別 ロープ 第2位 得点 13.150 矢島 優聖
個人総合 第3位 得点 49.100 矢島 優聖

◎「歯・口の健康に関する図画ポスターコンクール」 優秀賞 2年 萱原 凜子

◆オンラインイベント TOKYO ENGLISH CHANNEL 「LIVE TALK」◆

世界で活躍する人々から、世界で生き抜く術を英語で聞き、自分ごととして将来の展望をもつことを目的としたイベントです。参加者はチャット機能を活用し、プレゼンターに質問することもできます。第1回はNASAジェット推進研究所の小野 雅裕さんからAll English でお話を伺います。

(1) 開催日時

令和3年10月23日(土) 午後1時から午後2時まで

(2) 出演者

プレゼンター：小野 雅裕 (NASA ジェット推進研究所)

司会者：ハリー杉山 (タレント)

(3) 参加方法

オンライン会議室システム (Zoom) で参加

(4) 参加費

無料 (ただし、通信料等は参加者の自己負担です。)

(5) 対象者

都内在学・在住の高校生 (中学生も可)

(6) 申込方法

生徒個人がウェブサイト「TOKYO ENGLISH CHANNEL」で申込

※10月5日(火) 午後4時から先着順 (定員300名) で受付開始

※申込には申込コード「TEC2021」が必要です。

※ その他

本イベントは都内在学・在住の高校生 (中学生も可) を対象としたイベントです。対象者であることを確認するため、申込コードをチラシに掲載しています。(本校在籍生徒以外が見ることのできるウェブサイトに掲載したり、SNS で発信したりすることは御遠慮ください。)

※ チラシは、別に配布いたします。



◆10月4日(月) から通常50分授業になります。年度当初の時刻になります。出席確認は、8時30分です。週時程表や新型コロナウイルス対応に関しましては、別紙やホームページで御確認ください。◆